

浜の活力再生プラン (第 2 期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	浜名地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 河合和弘 (浜名漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	浜名漁業協同組合、浜松市、湖西市
オブザーバー	静岡県 (静岡県水産技術研究所浜名湖分場)

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	シラス船曳網漁業 (56 経営体)、採貝 (551 人)、定置網 (164 人) タキヤ (94 人)
-----------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>浜名漁業協同組合の管内では、遠州灘におけるシラス船曳網等、浜名湖内でのアサリ採貝、小型定置網をはじめ様々な漁業が営まれている。水揚げ量の大半はシラスとアサリが占め、令和元年の水揚げ量は、シラス 1,720 トン、アサリ 872 トンで、全水揚げ量の 76%を占めている。南部の舞阪地区と新居地区ではシラス漁を重点に置いた漁業が行われ、静岡県でも最大の水揚地となっている。背後地には加工場が立地し、水揚げされたシラスは全て釜揚げやちりめん加工されている。シラス漁は年間約 100 日操業しており、漁獲量は経年変動が比較的少ないが、近年ではシラスの漁獲量の変動が激しく、仲買人の減少や魚価の低迷、資源の減少、さらには後継者不足が課題となっている。シラス船の乗組員にはアサリ採貝を副業とするものも多く、シラス船曳網とアサリ採貝は、管内でも特に重要な魚種となっている。また湖内の主な水揚げ魚種は 30 種類に及んでおり、これらの多種多様な漁獲を支える小型定置網・タキヤなどの漁業を維持していくことも重要な課題である。特にタキヤ漁は、夜間に灯火で集めた魚を船上からモリで突く独特な伝統漁法であり、伝統の継承は地区の大きな課題である。</p> <p>当地区の水産業をとりまく課題として、近年はシラスの漁獲量が減少傾向である。そこで、朝市などでの PR や氷を活用した鮮度保持で、付加価値向上を高めて漁業収入につなげる必要が生じている。また、アサリ漁獲量の減少が著しく、環境改善による根本的な対策が必要と考えられるようになった。さらに、全漁業種に共通の課題として、組合員の高齢化、後継者不足があり、操業コスト高と魚安価により新規就業者も確保が困難となっている。操業コストを抑えると同時</p>
--

に魚価を向上させる取組が必要となっている。第1期浜プランで船揚場、製氷施設の修繕を実施しており、これらの施設を活用することで、課題を解決することが必要である。

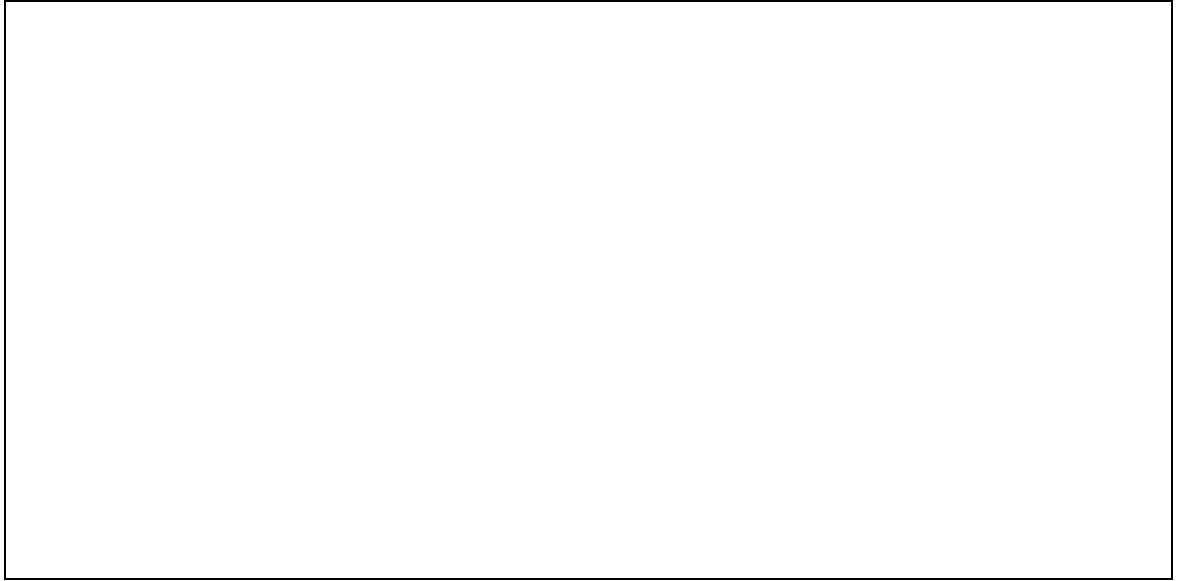
(2) その他の関連する現状等

浜松市が、民間資本の導入による弁天島海浜公園（西区舞阪町）再整備を計画している。敷地内に商業施設やホテルなどが整備される計画で、浜名湖観光の拠点として2022年頃の開業を目指している。その後の第2期工事では、水産資源を生かした観光施設「フィッシャーマンズワーフ」建設や栈橋の増設も構想されており、地区水産物の販売促進に繋がると期待している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--



(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

近年は漁獲量の減少が激しく、浜名湖内の漁場自体の見直しが必要となっている。そこで、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」の設置や、魚やアサリの生育場と考えられるアマモ場を回復させる取組を新たに検討し、漁場改善を図る。また、採貝漁業者による密漁パトロール、袋網漁業者による種苗放流も継続し、資源回復を図る。

また、朝市や料理教室等、地区のイベントを通じた水産物やタキヤ漁のPR、修繕された製氷施設を活用したシラスの鮮度保持の強化に努め、漁業収入の向上を図る。漁業コスト削減の取組みとして、船底清掃の積極的な実施、漁業経営セーフティーネット構築への加入推進を進める。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

- ①静岡県海域における浜名漁業協同組合のしらす資源管理計画を実施する。
- ②あさり漁業者は採貝連合会規約、同操業規則を定め操業制限をする。(採捕量、漁獲サイズ、操業時間、休漁日、禁漁区の設定)
- ③袋網漁業者は、袋網漁業条件(漁業調整規則による漁獲物サイズ制限、休漁期等)を遵守し操業する。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容(毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目(令和2年度)

以下の取組みで、漁業総所得額の基準年比4%向上を図る。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><資源管理対策></p> <p>①採貝漁業者は、潮流を低減させ、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」を設置し、アサリ資源の増殖を目指す。</p> <p>②採貝漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また採貝漁業者は、操業時間及び捕獲サイズを遵守し、これにより資源回復に努める。</p> <p>③袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。生存率を高めるために実践する中間育成において、少ない労力でもできる小規模な育成方法の試験を行う。</p> <p>④採貝漁業者は魚やアサリの生育場と考えられるアマモ場を回復させる取組として、アマモの苗作りについて検討する。</p> <p><普及振興対策></p> <p>①漁協は、浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>②シラス漁業者は、前期に修繕をした製氷施設を活用しシラスの運搬時には十分な氷を使用して鮮度保持に努め、単価向上を図る。</p> <p>③タキヤ漁業者はホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①漁協は燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p> <p>②全漁業者は漁船の燃費向上のため、船底清掃を実施し、燃油使用料の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・アサリ資源回復事業

2年目（令和3年度）

以下の取組みで、漁業総所得額の基準年比7%向上を図る。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p><資源管理対策></p> <p>①採貝漁業者は、潮流を低減させ、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」の設置場所増加を検討する。</p> <p>②採貝漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また採貝漁業者は、操業時間及び捕獲サイズを遵守し、これにより資源回復に努める。</p> <p>③袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。生存率を高めるために実践する中間育成にお</p>
---------------------	--

	<p>いて、少ない労力でもできる小規模な育成方法の試験を行う。</p> <p>④採貝漁業者はアマモ場回復のため、アマモの苗作りを試行する。また、自生しているアマモ群落の移植を検討する。</p> <p><普及振興対策></p> <p>①漁協及び全漁業者は舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスの販売、地元仲買人と協力して行う鮮魚や加工品の直売を実施し、地元水産物のPRを行う。</p> <p>②漁協は、浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③シラス漁業者は修繕をした製氷施設を活用しシラスの運搬時には十分な氷を使用して鮮度保持に努め、単価向上を図る。</p> <p>④タキヤ漁業者はホームページ活用でタキヤ漁をPRし、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p> <p>②全漁業者は漁船の燃費向上のため、船底清掃を実施し、燃油使用料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・アサリ資源回復事業

3年目（令和4年度）

以下の取組みで、漁業総所得額の基準年比9%向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p><資源管理対策></p> <p>①採貝漁業者は、潮流を低減させ、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」を新たな場所に設置し、アサリ資源の増殖を目指す。</p> <p>②採貝漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また採貝漁業者は、作業時間及び捕獲サイズを遵守し、これにより資源回復に努める。</p> <p>③袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。生存率を高めるために実践する中間育成において、少ない労力でもできる小規模な育成方法を実践する。</p> <p>④採貝漁業者はアマモの湖内移植作業を実施し、アマモ場の回復に取り組む。</p> <p><普及振興対策></p>
--------------	---

	<p>①漁協及び全漁業者は舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスの販売、地元仲買人と協力して行う鮮魚や加工品の直売を実施し、地元水産物の PR を行う。</p> <p>②漁協は、浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③シラス漁業者は修繕をした製氷施設を活用しシラスの運搬時には十分な氷を使用して鮮度保持に努め、単価向上を図る。</p> <p>④タキヤ漁業者はホームページ活用でタキヤ漁を PR し、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p> <p>②全漁業者は漁船の燃費向上のため、船底清掃を実施し、燃油使用料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・アサリ資源回復事業

4 年目（令和 5 年度）

以下の取組みで、漁業総所得額の基準年比 12%向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p><資源管理対策></p> <p>①採貝漁業者は、潮流を低減させ、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」の設置場所追加を検討する。</p> <p>②採貝漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また採貝漁業者は、作業時間及び捕獲サイズを遵守し、これにより資源回復に努める。</p> <p>③袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。生存率を高めるために実践する中間育成において、少ない労力でもできる小規模な育成方法を実践する。</p> <p>④採貝漁業者はアマモの湖内移植作業を実施し、アマモ場の回復に取り組む。</p> <p><普及振興対策></p> <p>①漁協及び全漁業者は舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスの販売、地元仲買人と協力して行う鮮魚や加工品の直売を実施し、地元水産物の PR を行う。</p> <p>②漁協は、浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p>
--------------	---

	<p>③シラス漁業者は修繕をした製氷施設を活用しシラスの運搬時には十分な氷を使用して鮮度保持に努め、単価向上を図る。</p> <p>④タキヤ漁業者はホームページ活用でタキヤ漁を PR し、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①漁協は燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築への加入漁業者増加を図る。</p> <p>②全漁業者は漁船の燃費向上のため、船底清掃を実施し、燃油使用料の削減を図る。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・アサリ資源回復事業

5年目（令和6年度）

以下の取組みで、漁業総所得額の基準年比 12%向上を図る。

漁業収入向上のための取組	<p><資源管理対策></p> <p>①採貝漁業者は、潮流を低減させ、アサリ稚貝の着底を促す効果がある「モクヨケ杭」を新たな場所に設置し、アサリ資源の増殖を目指す。</p> <p>②採貝漁業者は漁協等と連携してパトロールなどを行うことにより、アサリの密漁を監視し、適切な採捕の指導を行う。また採貝漁業者は、作業時間及び捕獲サイズを遵守し、これにより資源回復に努める。</p> <p>③袋網漁業者は、クルマエビ、ガザミ、ノコギリガザミ等の種苗を購入して放流し、資源増大に取り組む。生存率を高めるために実践する中間育成において、少ない労力でもできる小規模な育成方法を実践する。</p> <p>④採貝漁業者はアマモ移植の効果を検証し、次年度以降のアマモ場回復事業について検討を行う。</p> <p><普及振興対策></p> <p>①漁協及び全漁業者は舞阪港で定期的に行われている「えんばい朝市」に積極的に参加し、生シラスの販売、地元仲買人と協力して行う鮮魚や加工品の直売を実施し、地元水産物の PR を行う。</p> <p>②漁協は、浜松市及び湖西市の小学校等での魚料理教室、浜名湖で開催されるさまざまなイベントと連携した試食会等を開催し、地域での魚食普及を図る。</p> <p>③シラス漁業者は修繕をした製氷施設を活用しシラスの運搬時には十分な氷を使用して鮮度保持に努め、単価向上を図る。</p> <p>④タキヤ漁業者はホームページ活用でタキヤ漁を PR し、観光協会とも協力してタキヤ漁体験の乗客増加を図る。</p>
--------------	---

漁業コスト削減のための取組	①漁協は燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティーネット構築への加入漁業者増加を図る。 ②全漁業者は漁船の燃費向上のため、船底清掃を実施し、燃油使用料の削減を図る。
活用する支援措置等	・漁業経営セーフティーネット構築事業 ・アサリ資源回復事業

(5) 関係機関との連携

静岡県水産技術研究所や浜松市、湖西市等と積極的に連携を図る。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成26～30年度5中3平均：円
	目標年	令和6年度：円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

アサリ漁獲量の増加	基準年	968,000 kg
	目標年	1,068,750 kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

他県の事例で、モク除け設置2年目からアサリ稚貝の着底が400%に増加。うち、0.1%が漁獲されると期待し、40%の増加。浜名湖面積の1/20に効果があると考え2%の漁獲量増加を期待する。5年後に1,068,750 kgの漁獲量をめざす。
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティ ーネット構築事業	燃油高騰による漁業コスト圧迫防止措置
アサリ資源回復事業 (静岡県事業)	アサリ資源回復、漁場環境改善の実施
水産イノベーション 対策推進事業 (静岡県事業)	水産物の資源管理、付加価値向上の取組実施

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。